

創業者出身地への学生派遣プログラムについて

社会連携機構長・副学長
藤江昌嗣



明治大学は132年前、1881（明治14）年に岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操という3人の青年により設立されました。2010年10月に創設された社会連携機構は、福宮賢一学長が掲げる三つの柱、すなわち、教育、研究に並ぶ第三の柱として、大学が持つ様々な知的資産を社会に開放、発信するとともに、教職員や学生が地域に入ることを通じた社会貢献を積極的に推進してきています。社会連携機構のもとにある地域連携推進センターとリバティアカデミーが、それぞれ地域社会と連携した事業と生涯学習活動を展開しています。

本機構は、2012年3月31日には、文部科学省との共催で、私学として最初の「熟議2012 in 明治大学」を駿河台キャンパスで開催しました。

また、地域連携推進センターは、明治大学創業者3人の出身地である山形県天童市、福



井県鯖江市、鳥取県と連携協力協定を締結し、さまざまな連携事業を展開してきています。

例えば、天童市の場合、2002年10月に宮城浩蔵の胸像が天童市立旧東村山郡役所資料館に建立され、翌年には宮城浩蔵賞が制定され、天童市内の中学校の優秀生徒が褒賞されています。また、2009年11月の明治大学・天童市連携講座「私の一歩が地域を変える」が開講し、

明治大学との本格的な交流が始まり、2010年には明治大学・天童市連携講座「てんどう笑顔塾」が開講し、2010年12月に「山形県天童市と明治大学との連携協力に関する協定書」を締結しました。

また、鯖江市の場合、矢代操に関する歴史編纂分野での調査や講演会の実施、「まなべの館」敷地の矢代操胸像建立（2003年）、2010



年からの各種連携講座の開講や就職キャリア支援プログラムとして明大生による「鯖江ブランド創造プログラム」を開始などに取り組んできました。2011年11月に「鯖江市と明治大学との連携協力に関する協定書」を締結しました。また、2012年には矢代操の旧宅地を明治大学が購入し、その活用の段階に入りました。

鳥取県とは、明治法律学校初代校長も務めた岸本辰雄を輩出したことから、2005年度から、駿河台キャンパスで「鳥取県・明治大学連携講座」を開講し、2009年3月に「明治大学・鳥取大学・鳥取県との連携協力に関する協定書」を締結しました。

こうしたさまざまな連携事業の実績を踏まえ、2012年度には、3人の創業者出身地へ学生を派遣し、学生と地域の人々との交流を通じた「地域活性化への提言」を行うプログラムを実施しました。今回の派遣プログラムには上記の「熟議」のノウハウも活かされました。



本報告書はこのプログラムの準備段階から、3地域への訪問、中間発表、成果報告会、そして2013年1月7日に開催されたプログラム総括のための「熟議」までのプログラム全体を包括した報告書です。本プログラムの内容が生き生きと伝わることを願っております。

3地域での本プログラムの実施に際しては、多くの方々にお世話になりました。まさに連携なくして、このプログラムの実施はありえませんでした。3地域の首長である平井伸治鳥取県知事、山本信治天童市長、牧野百男鯖江市長はじめ関係各位、また、地元の皆様方、そして明治大学校友会、父母会の皆様方に御尽力を頂いたことに深く感謝を申し上げます。

また、本プログラムの実施にあたり常に御配慮頂いた福宮賢一学長はじめ教学関係各位、また、日高憲三理事長、三木一郎学務担当理事はじめ法人関係各位、社会連携機構スタッフの教職員の皆様方に心より感謝を申し上げます。

そして、明治大学の始まりの一步の地である創業者の3地域を訪問し、より深い3地域との連携の「第一歩」を踏み出してくれ、学生らしい情熱と頑張りで、最後まで、プログラムをやり遂げた参加学生諸君に深く感謝したいと思います。

創立者出身地への学生派遣プログラム 2012 概要について

2010年に設置された社会連携機構のもとにおかれた地域連携推進センターでは、本学創立者出身地（鳥取県、山形県天童市、福井県鯖江市）と連携協力に関する協定を締結し、さまざまな連携事業を推進していくことを核に多様な連携事業を推進しています。

2011年度においては、校友会、連合父母会からそれぞれ助成を受け、鳥取県鹿野町への留学生対象の日本体験プログラムを実施し、留学生に日本の原風景や伝統文化を体験させ、都会ではなかなか触れることのできない日本の魅力を知ってもらうプログラムを実施し好評を博しました。

2012年度の学生派遣プログラムでは、校友会、連合父母会からそれぞれ助成を受け、創立者出身地であるそれぞれの自治体の抱える課題に対して、学生と地域の人々の交流・連携を通じた「地域活性化への提言」を行います。

現地における学生と地域住民らとの交流は、2012年3月に文部科学省と共催した*「熟議」形式を学生が主体となって実施し、課題や問題点を絞り込み、現地調査・取材を経たのち、再び「熟議」を通じて解決方法や対策を成果としてまとめ、政策提言する形式として実施します。

また、現地でのプログラム終了後、グループごとに成果報告書をまとめ、各地域に対して成果内容を報告発表します。

*「熟議」形式とは、

地域、職業、立場、年齢、性別を越えたさまざまな人々が、対等な立場で、共通のテーマについて「課題や問題点」を整理し、議論を重ね、「課題や問題点の解決方法や対策」について意見交換しながら「解決策・対応策の提言」をまとめるという協働作業を行う場のこと。

1. 実施スケジュール

募集期間 7月2日～7月13日

募集ガイダンス

7月2日 駿河台, 7月3日 生田, 7月4日 和泉

8月 1日 駿河台キャンパス アカデミーコモン11階311B教室

13:00 参加者ガイダンス (~16:00=予定)

14:00 地域別レクチャー (アカデミーコモン11階 各教室)

15:00 グループワーク

8月 8日 グループワーク報告書提出

8月22日 出発前最終ガイダンス(鯖江市)

8月27日 ~ 8月30日 鯖江市現地プログラム

8月30日 出発前最終ガイダンス(天童市)

9月 3日 ~9月 6日 天童市現地プログラム

9月 6日 出発前最終ガイダンス(鳥取市)

9月10日 ~9月13日 鳥取市現地プログラム

10月31日 成果報告書提出

11月18日 成果報告発表会(鯖江市)

- 12月 8日 成果報告発表会（天童市）
- 12月15日 成果報告発表会（鳥取市）
- 1月 7日 学生派遣プログラム参加者による熟議「FINAL」

2. 参加人数＝54名

- (1) 福井県鯖江市 16名（男子12名・女子4名）
- (2) 山形県天童市 20名（男子12名・女子8名）
- (3) 鳥取市鹿野町 18名（男子8名・女子10名）

3. 地域別プログラム概要

【福井県鯖江市でのプログラム】

テーマ「創業者出身地・さばえ活性化プロジェクト～鯖江ブランドの創造」

(1) グループテーマ

- ①市民主役のまちづくり（『熟議』手法をつかって）
- ②中心市街地の賑わいの創出について
- ③市民協働による食育推進～食でつながるみんなのさばえ～
- ④鯖江型の生涯スポーツ社会の実現

(2) 現地スケジュール

8月27日（月）8：33 東京発→鯖江着，着後市内視察

午後 オリエンテーション，グループワーク（課題や問題点をしぼりこむ）

夕食 現地の方との交流会

8月28日（火）終日 現地調査・取材

8月29日（水）午前 現地調査・取材

午後 熟議（提言内容をまとめる），発表準備

8月30日（木）午前 熟議成果発表

15：45 鯖江発→東京着（19：10）解散

(3) 宿泊先＝神明苑

(4) 引率者

藤江昌嗣・副学長・社会連携機構長（8/27～8/30）

源由理子・地域連携推進センター副センター長（8/27～8/30）

事務スタッフ

【山形県天童市でのプログラム】

テーマ「創業者出身地・てんどう活性化プロジェクト～天童ブランドの創造」

(1) グループテーマ

- ①将棋駒
- ②天童温泉
- ③フルーツ（さくらんぼ，ラフランス）
- ④歴史（特に，幕末・天童織田藩（藩祖は信長二男の信雄）を中心に）

⑤ホームタウンスポーツ（サッカーJ2 モンテディオ山形，Vプレミアリーグパイオニアレッドウィングス，東北楽天ゴールデンイーグルス2軍）

(2) 現地スケジュール

9月3日（月）9：24 東京発→天童着，着後市内視察
午後 オリエンテーション，熟議①（課題や問題点をしぼりこむ）
夕食 担当課・熟議参加者との交流会
9月4日（火）終日 現地調査・取材
9月5日（水）午前 現地調査・取材
午後 熟議②（提言内容をまとめる），発表準備
9月6日（木）午前 熟議成果発表
16：02 天童発→東京着（19：04）解散

(3) 宿泊先＝湯坊いちらく

(4) 引率者

須田努・地域連携推進センター長（9/3～9/4）
玉置雅彦・リバティアカデミー副アカデミー長（9/5～9/6）
事務スタッフ

【鳥取市鹿野町でのプログラム】

テーマ「創業者出身地・とっとり活性化プロジェクト～鹿野町からの発信～」

(1) グループテーマ

- ①鳥取・鹿野のおもてなし【留学生を主な対象とする】
- ②福祉政策を考える（買物弱者対策など）
- ③「四季薫るまち鹿野」のプランニング（1年を通じて訪れるまちづくり）
- ④空き家活用（企業のサテライトオフィスなど）
- ⑤都会で売れる「鹿野ブランド（農業・文化・工芸など）」づくり

(2) 現地スケジュール

9月10日（月）【空路】11：00 東京発→鳥取着
午後 オリエンテーション，鹿野町見学
夕刻以降 熟議①（課題や問題点をしぼりこむ）
9月11日（火）午前 現地調査・取材
午後 収穫体験
夕刻 グリーンツーリズム体験，（鬼楽庵宿泊）
9月12日（水）午前 現地調査・取材
午後 熟議②（提言内容をまとめる）
9月13日（木）午前 発表準備
午後 熟議成果発表
【空路】18：10 鳥取発→東京着（19：25）解散

(3) 宿泊先＝山紫苑，鬼楽庵（9/11のみ）

(4) 引率者

宮腰哲雄・社会連携機構副機構長＝9/12～9/13

須田努・地域連携推進センター長=9/10~9/12
事務スタッフ3名

4. 熟議FINAL

今年度初めて実施した「創業者出身地への学生派遣プログラム」について、プログラムの締めくくりとして、参加者・同行教職員・受入れ自治体職員によるプログラム総括及び次年度のプログラム編成（改善）にむけた提案のための熟議を実施しました。

プログラム参加者（参加地域・グループ混在）及び社会連携機構スタッフ、行政職員が、プログラムを通じて、それぞれの立場で得られたもの、気づいたことなどを語りあう場を通じて、参加者全体でプログラムについて考えました。

【開催概要】

(1) 開催日=2013年1月7日

(2) 参加人数=29名

社会連携機構スタッフ 6名

鯖江プログラムへの参加者 6名, 鯖江市職員 1名

天童プログラムへの参加者 8名

鳥取プログラムへの参加者 8名

【熟議内容】

- ①プログラム全般について（熟議を用いた地域の人々との交流・連携, 事前学習・研究, 現地フィールドワークなど）
- ②テーマについて（プログラムテーマ, グループテーマ）
- ③プログラムの感想（得られたもの, 気づいたこと, 良かった点, 悪かった点）
- ④次年度のプログラムに望むこと, 今後取り組んでみたいプログラム内容について
上記①~④の熟議内容をふまえ,

今回のプログラムの課題と解決策をまとめ, 次年度のプログラムについての提案を発表用シート（2枚）で作成する。

以 上

創業者出身地への学生派遣プログラム参加者名簿

◎リーダー

1. 鯖江市

グループ①「市民役のまちづくり」, チーム名「サ(イ)バージェント」

黒木 俊太郎	法学部	3年	安井 奈緒子	経営学部	2年◎
田中 佑弥	政治経済学部	3年	高橋 凌士	商学部	2年

グループ②テーマ「中心市街地の賑わいの創出について」

山下 龍太郎	大学院商学研究科博士前期	1年◎	大塚 眞由	国際日本学部	2年
亀ヶ谷 沙織	情報コミュニケーション学部	2年	池田 大地	法学部	1年

グループ③テーマ「市民協働による食育推進」, チーム名「チーム健康」

開発 祐介	経営学部	4年◎	川田 美緒	国際日本学部	1年
栗原 信彦	商学部	3年	菊池 友裕	商学部	1年

グループ④テーマ「ホームタウンスポーツ」, チーム名「鯖江スポーツ」

伴 雄介	経営学部	4年◎	内田 隼太	経営学部	3年
伊藤 宏樹	経営学部	3年	坂田 直人	政治経済学部	1年

2. 天童市

グループ①「将棋駒」, チーム名「将棋維新の会」

酒井 結衣	法学部	3年	江口 哲也	経営学部	2年
山田 康平	商学部	2年◎			

グループ②テーマ「温泉」, チーム名「ドンと来い!天童温泉」

戸川 翔太	情報コミュニケーション学部	2年◎	金子 あかり	経営学部	2年
佐々木 健人	情報コミュニケーション学部	2年	中村 未里	政治経済学部	1年

グループ③テーマ「フルーツ」, チーム名「フルーツ薦隊」

太田 直規	商学部	3年	竜澤 はるか	農学部	1年
川村 慶太	経営学部	2年	松田 安友子	国際日本学部	1年
高橋 幸花	経営学部	2年◎			

グループ④テーマ「歴史」, チーム名「You're beautiful」

高久 承実	法学部	3年	久野 晃弘	経営学部	2年
河邊 崇弘	政治経済学部	3年◎	林 竜也	政治経済学部	2年

グループ⑤テーマ「ホームタウンスポーツ」, チーム名「一紫入魂」

河野 宏基	政治経済学部	4年◎	藤田 惇志	商学部	3年
兼重 真武	経営学部	4年	須藤 友佳	経営学部	2年

3. 鳥取県

グループ①「鳥取・鹿野のおもてなし」, チーム名「トラベラー」

張 斯維	大学院法学研究科博士前期	2年	朴 何林	文学部	2年
松尾 太博	経営学部	4年◎	李 倫志	政治経済学部	1年

グループ②テーマ「福祉政策を考える」, チーム名「マンゴープリン」

目黒 五月	法学部	3年◎	浅野 友花	政治経済学部	1年
前田 晃穂	法学部	3年			

グループ③テーマ「四季薫るまち鹿野」のプランニング」, チーム名「From Chiba」

阿部 紘明	政治経済学部	4年◎	鈴木 琴美	政治経済学部	3年
山口 祐	国際日本学部	4年	木村 枝里	商学部	1年

グループ④テーマ「空き家活用」, チーム名「空き家と私と鳥取と」

本橋 勇次郎	法科大学院法務研究科	3年			
柴田 研三郎	商学部	4年◎	穂坂 彩乃	理工学部	4年

グループ⑤テーマ「都会で売れる「鹿野ブランド」づくり」, チーム名「鹿野ブランドづくり隊」

田中 宣成	専門職大学院 グローバル・ビジネス研究科	1年◎	包 辰	農学部	2年
佐伯 爽	農学部	3年	植村 正之	政治経済学部	2年